

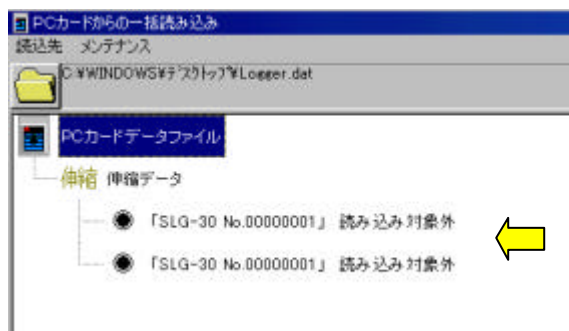
D-Station の伸縮データ読み込み処理について

OSNET 伸縮データ集録装置（型式 NetLG-501）及びグラフ付伸縮計（型式 SLG-30）で集録したデータを PC カードに回収して D-Station に読み込んだ場合、短周期（1 分間隔）と長周期（1 時間間隔）の 2 種類のデータを一つの項目として処理します。

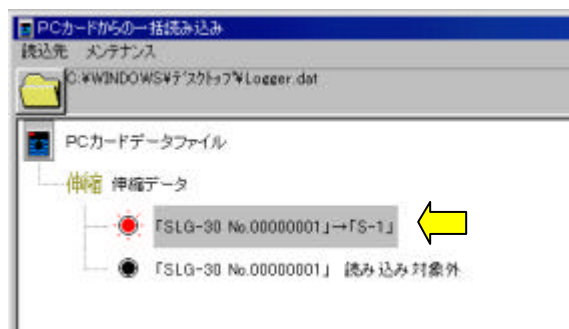
NetLG-501、SLG-30 のバージョン 4.0 以降は、従来 5 日間の蓄積日数だった短周期データが 2 倍の 10 日間を集録できるように改良されましたが、D-Station でバージョン 4.0 以降のデータを処理する場合、下図のように短周期データが分割されるので、どちらのデータを処理するか選択する形で表示されます。しかし、D-Station は 1 つの同一機器に対して 2 つのデータが有る状態を想定して設計されていないで、**10 日前から 5 日前まで**の短周期データと **5 日前から現在まで**の短周期データをつなげる処理ができません。よって短周期データの処理が必用な場合、次ページの 、 の方法でデータの読み取りを行って下さい。

但し、長周期データはどちらのデータを選択しても従来通り処理できます。

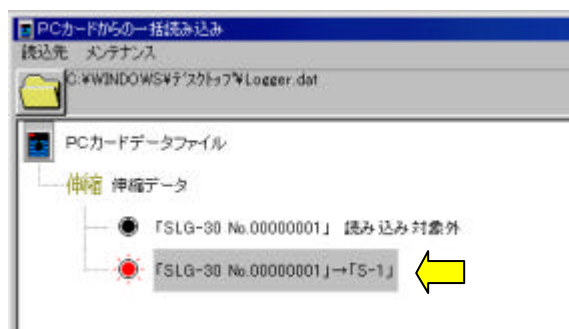
D-Station で PC カードデータを読み込んだ場合



PC カード読み込みすると、短周期データが分割されて表示されます。



上を選択すると、長周期データと **10 日前から 5 日前まで**の短周期データを読み込みます。 1

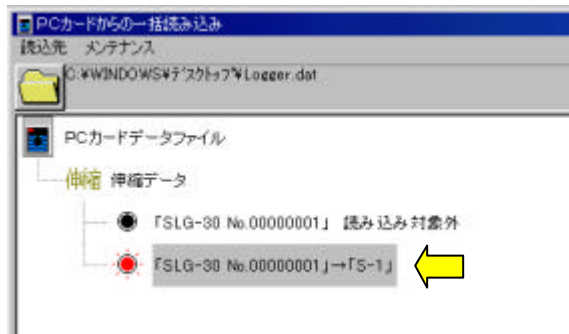


下を選択すると、長周期データと **5 日前から現在まで**の短周期データを読み込みます。 1

1 PC カードへのデータ回収時を現在とします

回収データが5日以内の場合

D-Station の PC カードデータの読み取りで下を選択して処理して下さい。



5日前から現在までの短周期データを読み込みしてください。

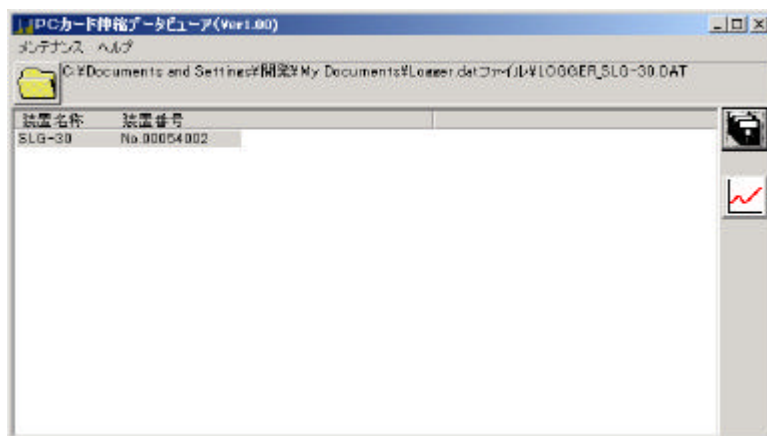
回収データが5日を超えた場合

D-Station では、**10日前から5日前まで**の短周期と**5日前から現在まで**の短周期をつなげる処理ができないため、PC カードに回収したデータを、一度PCカード伸縮データビューア 2 でテキストファイルに出力し、そのファイルを D-Station で読み込むように処理して下さい。

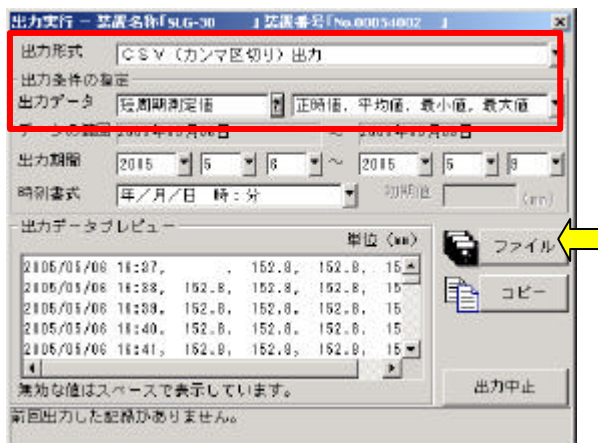
- 2 PC カード伸縮データビューアは弊社の伸縮計データを処理する Windows ソフトウェアです。
弊社ホームページ <http://www.osasi.co.jp/>にて無料配布しています。



PC カード伸縮データビューアを起動して、PC カードに回収したデータを読み込んで下さい。



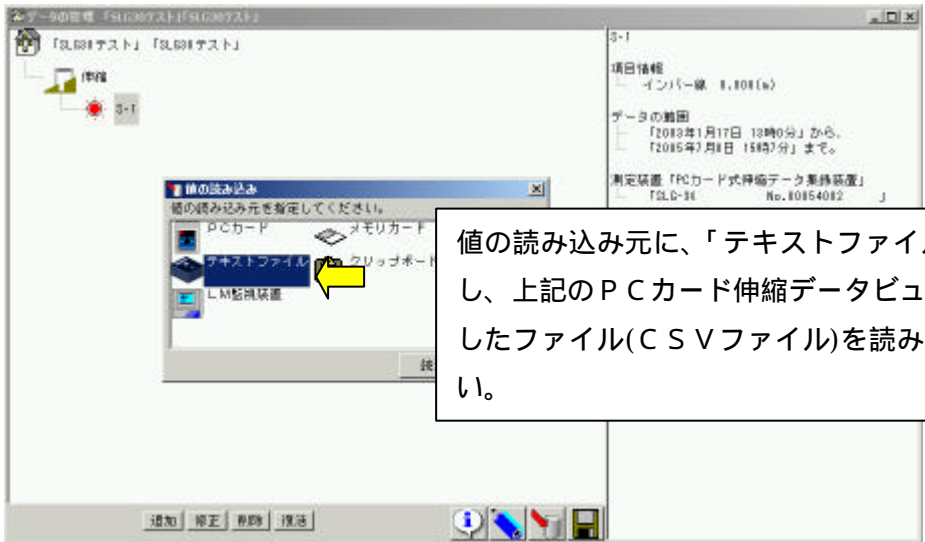
データ回収を行う装置を選択して、「データ出力」ボタンを押して下さい。



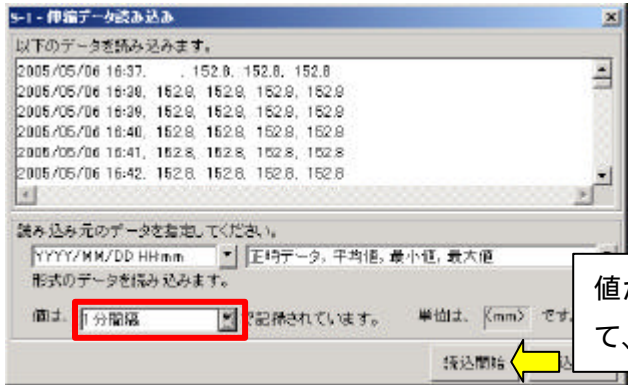
出力形式：「CSV (カンマ区切り) 出力」
出力データ：「短周期測定値」
「正時値、平均値、最小値、最大値」
をそれぞれ選択して下さい。
「ファイル」ボタンでデータをテキストファイルに出力します。



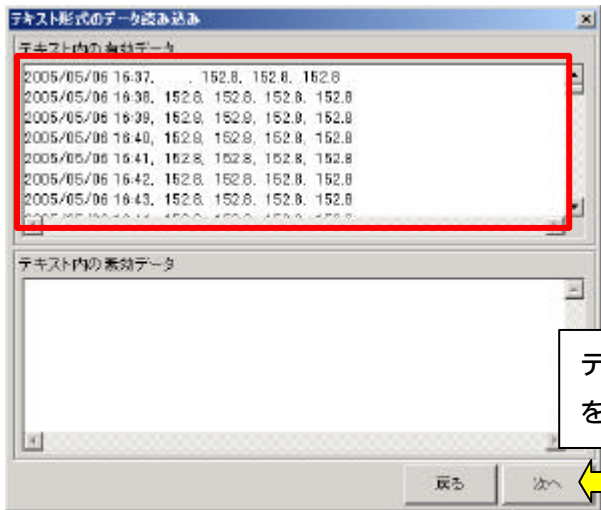
D-Station を起動して、該当する現場の伸縮データ集録装置を選択して下さい。



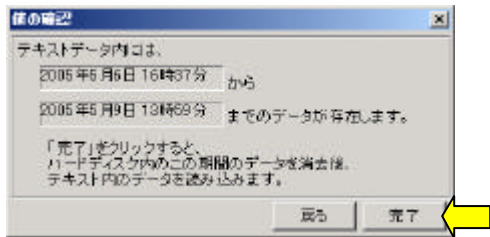
値の読み込み元に、「テキストファイル」を選択し、上記のPCカード伸縮データビューアで出力したファイル(CSVファイル)を読み込んで下さい。



値が「1分間隔」で記録になっていることを確認して、「読み込み開始」ボタンを押して下さい。



テキスト内の有効データの項で、回収データの内容を確認し、「次へ」ボタンを押して下さい。



「完了」ボタンで D-Station へデータの読み取り処理を完了します。